

ULT通信

あると

2017. 1. 26号 / vol. 68 発行 / ULT 図書館司書

遅くなりましたが、おけましておめでとうございます！今年もULTをたくさん使ってください！！
今回紹介する本の中には、ULTにないものも…。
リクエントは随時受け付けています◎

ミレニアム2017年の作家たち

私は生誕
150年。



著名な人物は、「生誕〇〇年」「没後〇〇年」など、後世でも折に触れ、その業績が振り返られます。2017年、文学界・出版界では、どのような作家が再注目されるのでしょうか。

(肖像画は『近代日本人の肖像』から転載しました。)

私は没後
90年。



英国女流作家と言えば！

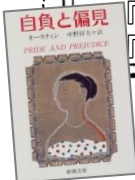
没後200年

ジェーン・オースティン

1775.12.16 - 1817.7.18

代表作

『高慢と偏見』
『エマ』



TVドラマでお馴染み！

生誕150年

ローラ・インガルス・ワイルダー

1867.2.7 - 1957.2.10

代表作

『大草原の小さな家』



日本一有名な小説家？

生誕150年

夏目漱石

1867.2.9 - 1916.12.9

代表作

『吾輩は猫である』
『坊っちゃん』
『こころ』★



(超訳)で大人気！

生誕100年
没後10年

シドニィ・シェルダン

1917.2.11 - 2007.1.30

代表作

『真夜中は別の顔』
『ゲームの達人』



SF界の巨匠！

生誕100年

アーサー・C・クラーク

1917.12.16 - 2008.3.19

代表作

『2001年
宇宙の旅』



『唯ほやしし木守』で自殺…

没後90年

芥川龍之介

1892.3.1 - 1927.7.24

代表作

『羅生門』
『蜘蛛の糸』
『地獄変』★



時代小説の名手！

没後50年

山本周五郎

1903.6.22 - 1967.2.14

代表作

『赤ひげ診療譚』★
『樅の木は残った』
『日本婦道記』



鷗外の娘。究極のお嬢様！

没後30年

森茉莉

1903.1.7 - 1987.6.6

代表作

『貧乏サヴァラン』
『恋人たちの森』

怪しい世界の博覧強記！

没後30年

澁澤龍彦

1928.5.8 - 1987.8.5

代表作

『黒魔術の手帖』★
『高丘親王航海記』



文章でトリップ！

没後20年

ウィリアム・バロウズ

1914.2.5 - 1997.8.2

代表作

『裸のランチ』
『麻薬書簡』



アイロニーとユーモア！

没後10年

カート・ヴォネガット

1922.11.11 - 2007.4.11

代表作

『タイタンの妖女』
『国のない男』★



★印はULT百選です。

新着案内

11・12月の新着は271点です。一部抜粋で紹介します。

↓話題のこと・話題の本



タイトル	著者	出版社	請求記号
その島のひとたちは、ひとの話をきかない：精神科医、「自殺希少地域」に行く	森川 すいめい	青土社	368.3-モリ
難民問題：イスラム圏の動揺、EUの苦悩、日本の課題	墓田 桂	中央公論新社	369.38-ハク
イレズミと日本人	山本 芳美	平凡社	383.7-ヤマ
細胞が自分を食べる：オートファジーの謎	水島 昇	PHP研究所	463.6-ミス
ざんねんないきもの事典：おもしろい進化のふしぎ	今泉 忠明監修	高橋書店	480.4-イマ
レア：希少金属の知っておきたい16話	キース・ペロニーズ	化学同人	565.8-Ve
築地の記憶：人より魚がエライまち	富岡 一成	旬報社	675.5-トミ
最後の秘境東京藝大：天才たちのカオスな日常	二宮 敦人	新潮社	704-ニノ
「おそ松さん」の企画術：ヒットの秘密を解き明かす	布川 郁司	集英社	778.7-ヌノ

↓小説・エッセイ・映画原作本

タイトル	著者	出版社	請求記号
聖の青春	大崎 善生	KADOKAWA	796-ムラ
何様	朝井リョウ	新潮社	913.6-アサ
オケ老人!	荒木 源	小学館	913.6-アラ
ジニのパズル	崔 実	講談社	913.6-チエ
東京會館とわたし 上下	辻村 深月	毎日新聞出版	913.6-ツシ
校閲ガール/校閲ガール ア・ラ・モード/校閲ガールトルネード	宮木 あや子	KADOKAWA	913.6-ミヤ
夜行	森見 登美彦	小学館	913.6-モリ
アズミ・ハルコは行方不明	山内 マリコ	幻冬舎	913.6-ヤマ
勇気は、一瞬 後悔は、一生	0号室	ベストセラーズ	916-セロ
ハリー・ポッターと呪いの子	J.K.ローリング	静山社	933.7-Ro-12



ユラムde!!

第68回は高橋が担当です。テーマは「知らない世界を教えてくれる本」。本を読むことで、未知の世界や絶対に経験することのできない状況を体験できる…まさに読書の醍醐味ですね。そんな気分を思う存分味わうことのできる本『ヤノマミ』(ULT百選レベル3)を紹介します。



この本は、作者の国分拓がドキュメンタリー番組制作のため、アマゾンの奥深くで暮らす<ヤノマミ族>の集落で過ごした150日間の記録です。作り物(フィクション)ではない、ノンフィクションの作品です。読んでいるうちに、まるで自分も深いアマゾンの奥地に立っている感覚を覚えます。

ヤノマミ族は、ブラジルとベネズエラにまたがる広大な森に生きる先住民です。三万人近くの人々が、200以上の集落に分かれて生活しています。もちろん日本語など通じません。作者の一行は、彼らと同じ家に住み、同じ物を食べ、言葉を覚えながら同居生活を送ります。自分の知らない言語に囲まれて過ごす150日間。しかも、アマゾンの奥地で。想像を絶する状況です。

作中では、<ヤノマミ族>との様々なエピソードが語られます。日本人から見れば驚くこともしばしば起こりますが、自然とともに生きてきた彼らにとっては、受け継がれてきた民族としてのあるべき姿です。同様に、私達日本人の行動やしきたりの中にも、海外の方から見ると「えっ!？」と驚かれるものがあるはずですよ。

しかし、森で生活する彼らの中にも、文明に関心を寄せ始める若者が出てきます。伝統よりも便利なものに手を出してしまう。それは万国共通なのでしょうか。外の人間が取材のためにアマゾンを訪れること、それ自体が彼らにとっては脅威なのかもしれません。文化が変化していくこと、それは脅威なのか、成熟なのか…。

地球上には、様々な<常識>があります。あなたの常識が別の国の常識とは限りません。それは国に置き換えても、学校に置き換えても、教室に置き換えても同じです。物事の価値観は、自分の頭の中のものさしだけでは測れないのだということをこの本から改めて教えられた気がします。次回のテーマは「アマゾンで生活する人たちに日本を紹介する機会があったらぜひ渡したい本」にします。